

令和4年度 第10回

希望郷いわてモニターアンケート  
食の安全安心及び食育に関する意識調査

【報告書】

令和5年3月

岩手県環境生活部県民くらしの安全課

## I アンケート調査の概要

1 調査課題名  
食の安全安心及び食育に関する意識調査

2 調査の目的

岩手県食の安全安心推進計画及び岩手県食育推進計画の推進を着実に図り、本県の食の安全安心の確保及び食育の推進につなげていくため、計画に基づく施策や取組の参考とするものである。

3 調査期間  
令和5年1月19日（木）から2月2日（木）まで

4 調査方法  
調査紙郵送及びインターネット

5 調査対象  
令和4、5年度希望郷いわてモニター 200名

6 回答者数  
175名

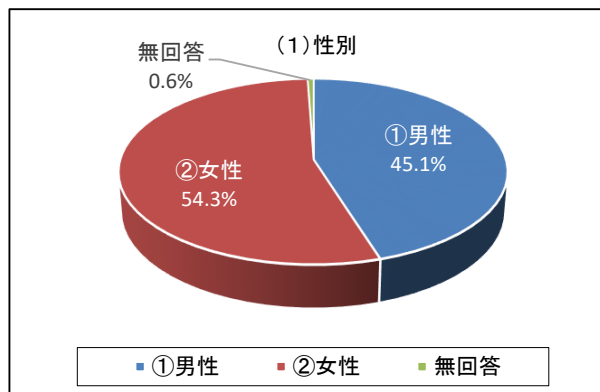
7 回答率  
87.5%

## II アンケート集計結果

問1 あなたの性別、年齢、職業、居住地についてお聞かせください。

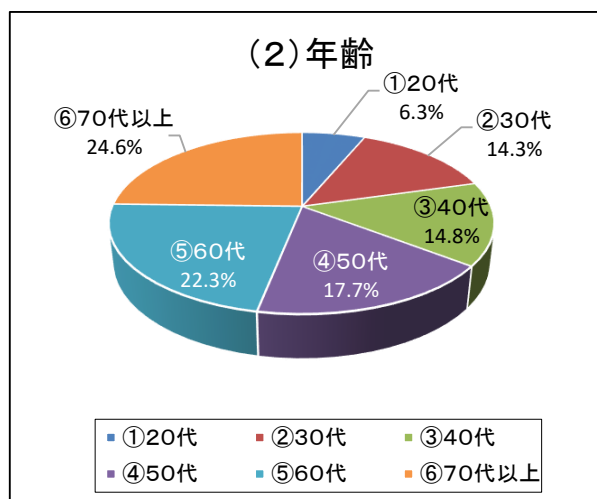
(1)性別

①男性	79
②女性	95
無回答	1
計	175



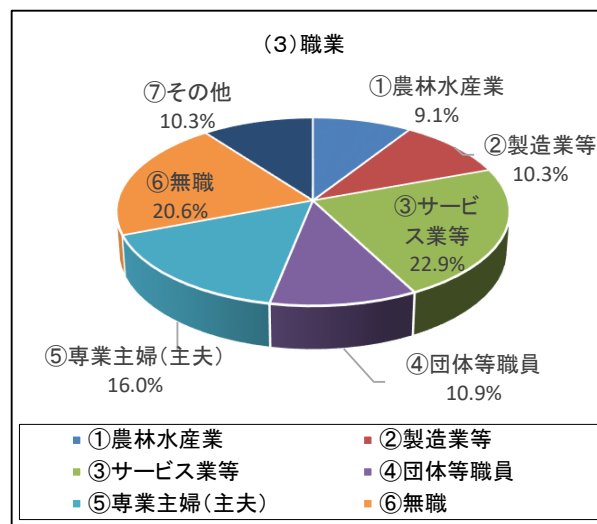
(2)年齢

	合計	男性	女性	無回答
①20代	11	6	5	0
②30代	25	8	17	0
③40代	26	15	11	0
④50代	31	11	20	0
⑤60代	39	15	24	0
⑥70代以上	43	24	18	1
計	175	79	95	1



(3)職業

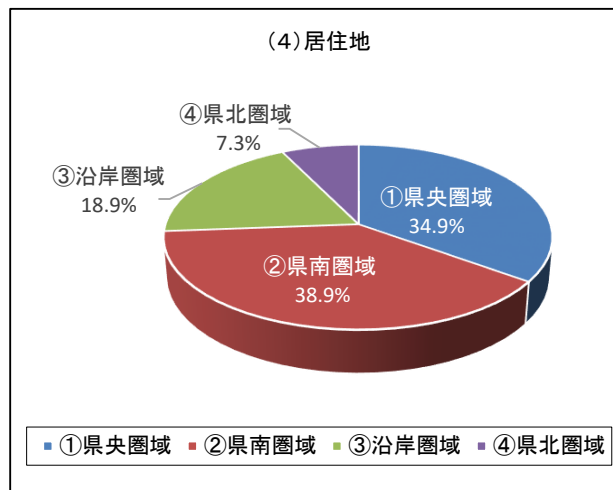
	合計	男性	女性	無回答
①農林水産業	16	11	5	0
②製造業等	18	12	6	0
③サービス業等	40	22	18	0
④団体等職員	19	8	11	0
⑤専業主婦(主夫)	28	1	27	0
⑥無職	36	19	17	0
⑦その他	18	6	11	1
計	175	79	95	1



※「その他」の内訳: 学生、パート、自営業 等

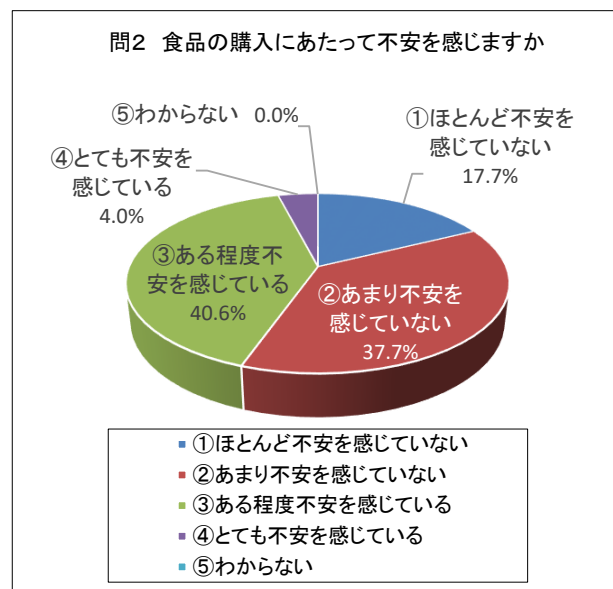
(4)居住地

①県央圏域	61
②県南圏域	68
③沿岸圏域	33
④県北圏域	13
計	175



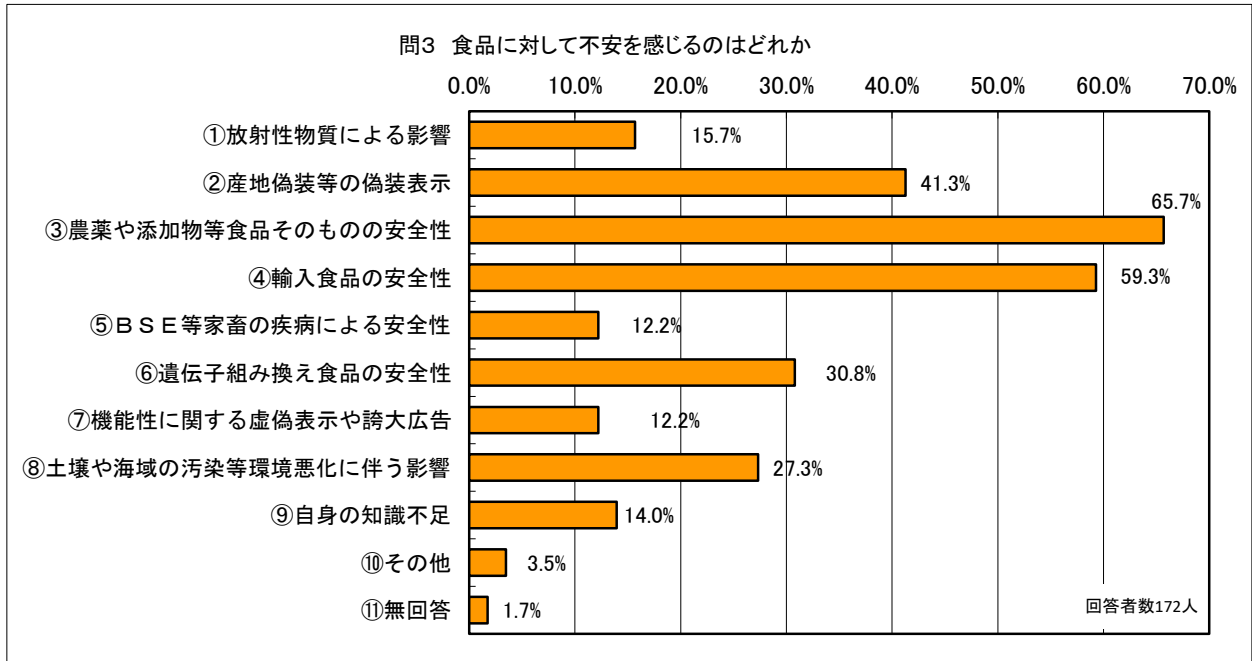
問2 あなたは、普段、食品の購入に当たって不安を感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

①ほとんど不安を感じていない	31
②あまり不安を感じていない	66
③ある程度不安を感じている	71
④とても不安を感じている	7
⑤わからない	0
計	175



食品購入に当たって不安を感じる人の割合は44.6%であり、不安を感じない人の55.4%を下回っている。また、前回(令和3年3月調査。以下同じ)の40.5%から増加している。

問3 あなたが食品に対して不安を感じているのは(又は不安を感じるとすれば)、次のうちどれですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



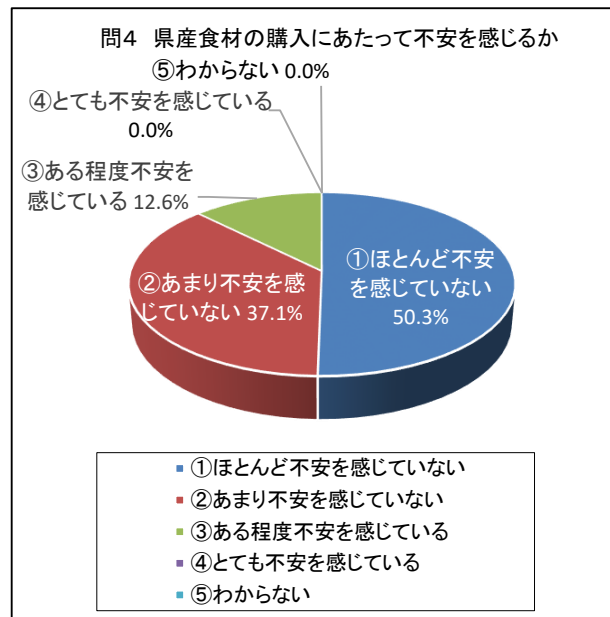
※「その他」の主なもの: 食品の値上がり、地産食品の価格負け、体に良いかどうか、清潔な環境で作っているか

不安を感じる理由は、「③農薬や添加物等食品そのものの安全性(65.7%、前回54.6%)」が最も多く、次いで「④輸入食品の安全性(59.3%、前回61.3%)」、「②産地偽装等の偽装表示(41.3%、前回39.9%)」の順に多かった。

なお、「①放射線物質による影響」は15.7%と、前回(18.4%)よりも減少している。

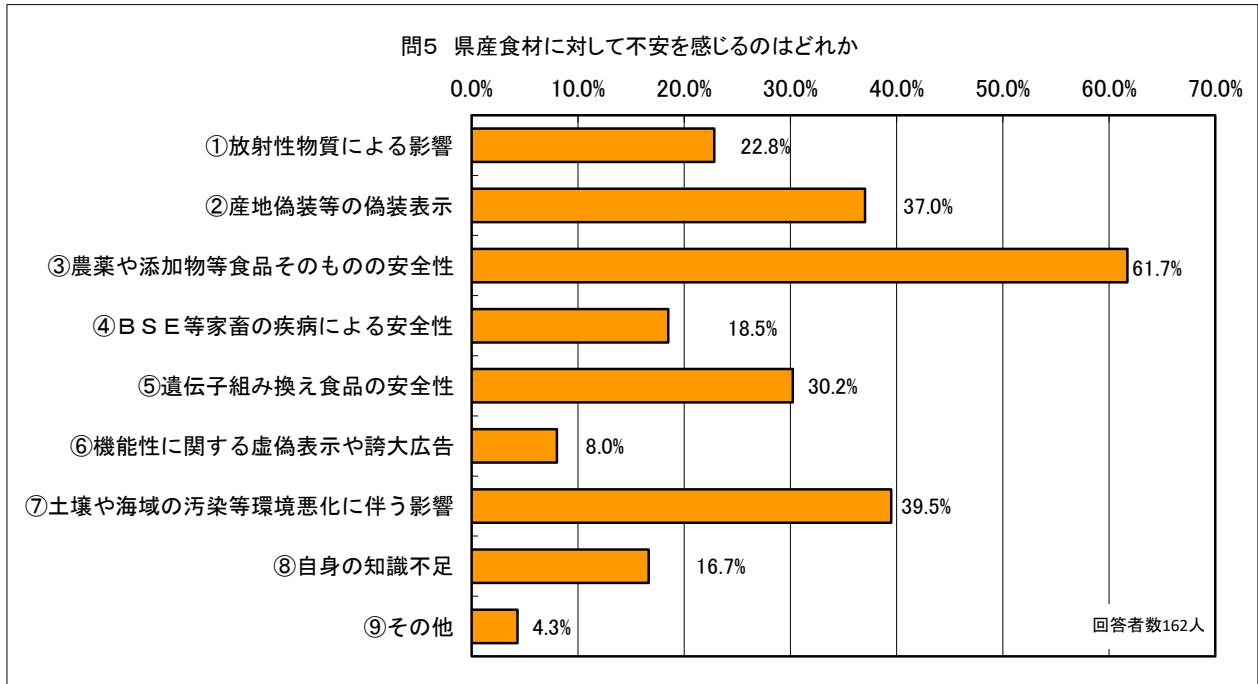
問4 あなたは、普段、県産食材の購入に当たって不安を感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

①ほとんど不安を感じていない	88
②あまり不安を感じていない	65
③ある程度不安を感じている	22
④とても不安を感じている	0
⑤わからない	0
計	175



県産食材の購入に当たって不安を感じている人は12.6%(前回11.0%)となっており、不安を感じない人の87.4%(前回88.4%)を大幅に下回っている。

問5 あなたが県産食材に対して不安を感じているのは(又は不安を感じるとすれば)、次のうちどれですか。あてはまるものを3つまで選んでください。

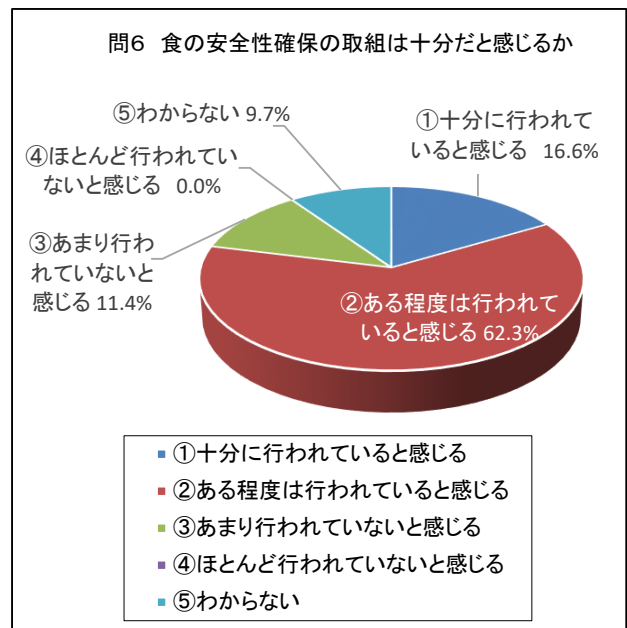


※「その他」の主なもの:生産者の高齢化、他県の品が安価だったり品質が良かったりする、家畜等の飼いや餌の質、岩手県産は信用している 等

県産食材の購入に不安を感じる理由は、前回調査と同様に、「③農薬や添加物等食品そのものの安全性(61.7%、前回53.4%)」が最も多く、次いで「⑦土壌や海域の汚染等環境悪化に伴う影響(39.5%、前回32.5%)」、「②産地偽装等の偽装表示(37.0%、前回42.39%)」の順に多かった。

問6 あなたは、県内の食品関連事業者(農林水産物の生産者や食品を取り扱う事業者)の食の安全性確保の取組が十分に行われていると感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

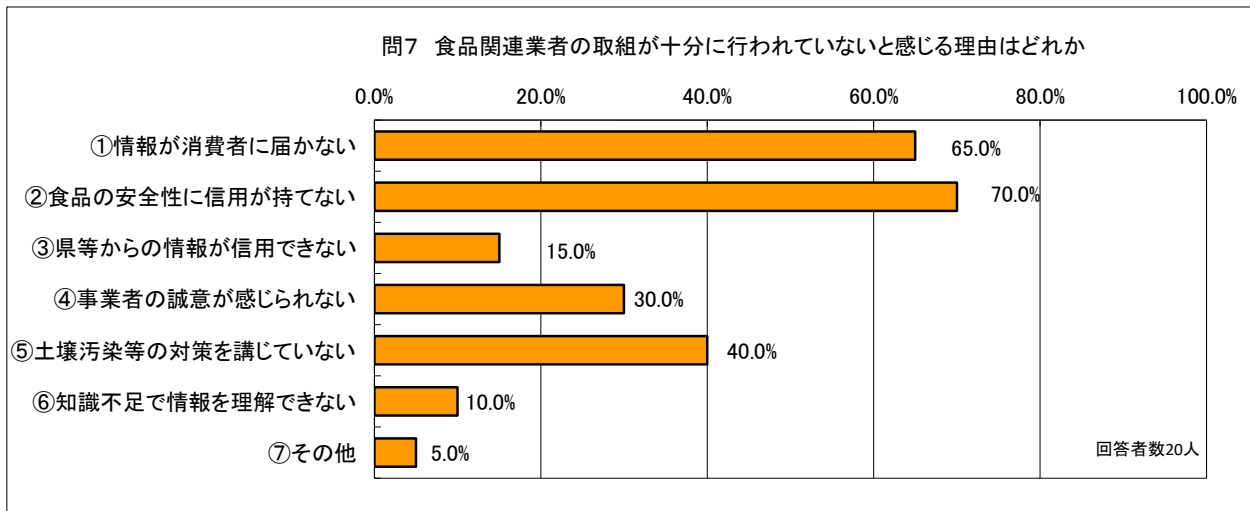
①十分に行われていると感じる	29
②ある程度は行われていると感じる	109
③あまり行われていないと感じる	20
④ほとんど行われていないと感じる	0
⑤わからない	17
計	175



安全性確保の取組が行われていると感じる人の割合は、78.9%(前回86.5%)となっており、県内の食品関連事業者の取組については、概ね理解されている結果となった。

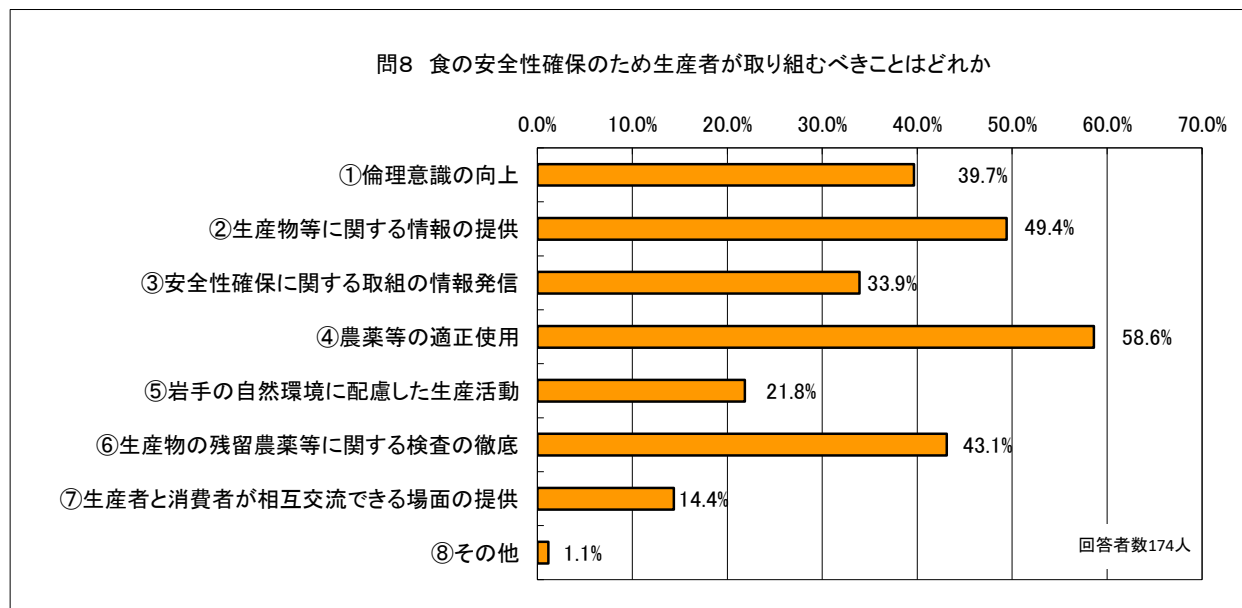
問7 問6で③又は④を選んだ方にお聞きします。

あなたは、県内の食品関連事業者の取組が十分に行われていないと感じる理由は、次のうちどれですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



安全性確保の取組が十分ではない理由は、「②食品の安全性に信用が持てない(70%、前回100%)」が最も多く、次いで、「①情報が消費者に届かない(65.0%、前回75.0%)」及び「⑤土壌汚染等の対策を講じていない(40.0%、前回75.0%)」の順に多かった。

問8 あなたは、県内の生産者が食の安全性確保のために特に取り組むべきことは、次のうちどれだと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



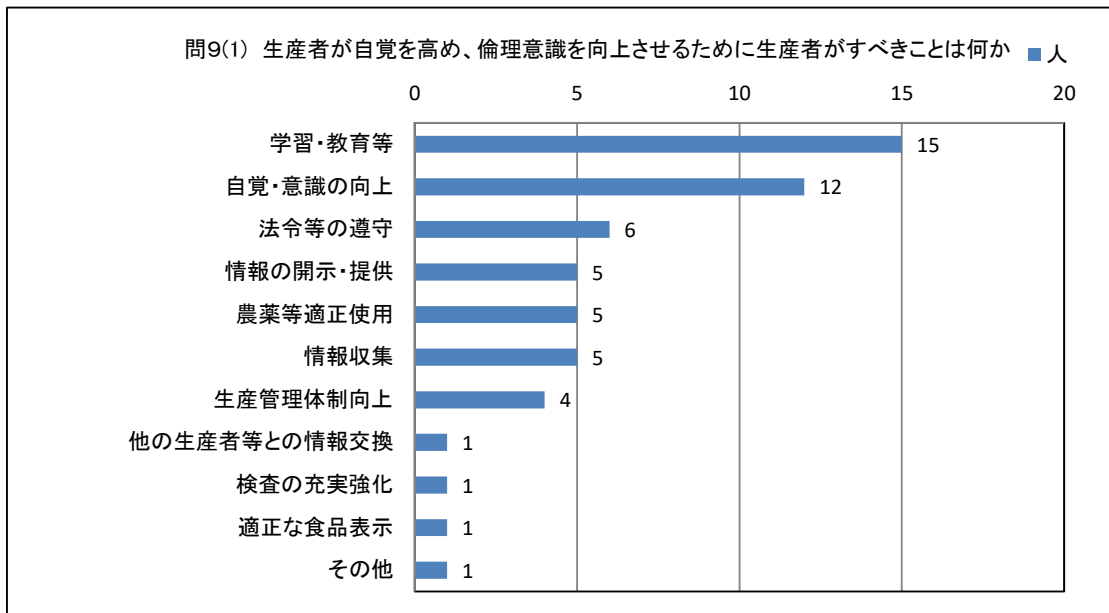
※「その他」の主なもの: 様々な検査を行った時の検出限界の表示、生産物の適正価格取引

県民が求める生産者の取組は、「④農薬等の適正使用(58.6%、前回47.2%)」が最も多く、次いで「②生産物等に関する情報の提供(49.4%、前回49.1%)」、「⑥生産物の残留農薬等に関する検査の徹底(43.1%、前回37.4%)」の順に多かった。

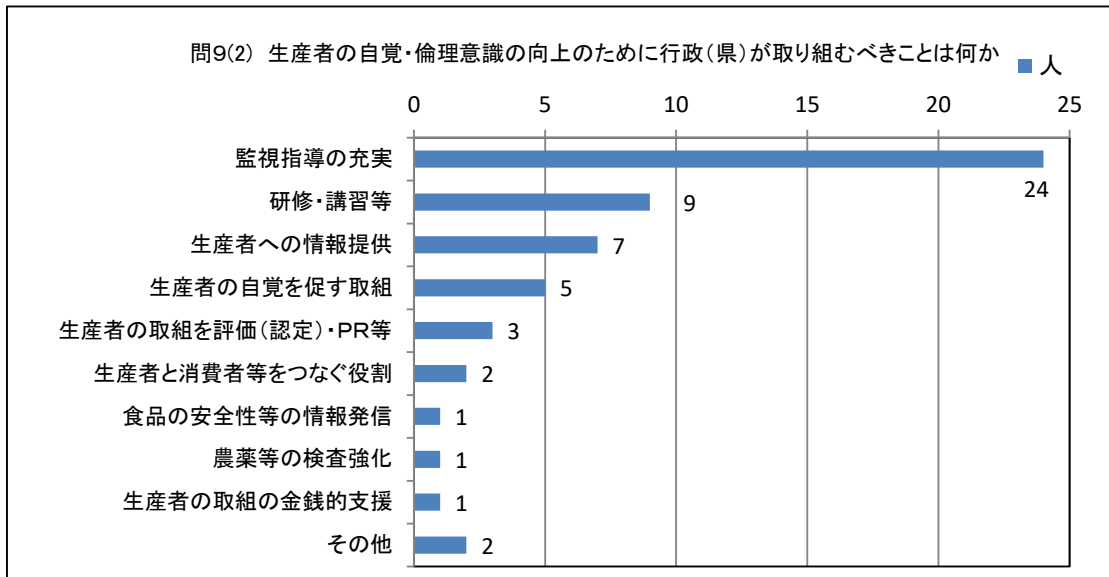
問9 問8で①(倫理意識の向上)を選んだ方にお聞きします。

あなたは、生産者が自覚を高め、倫理意識を向上させるために必要なこと(具体的にすべきこと)及び行政(県)が取り組むべきことは、何だと思えますか。(自由記載)

(1) 生産者がすべきこと



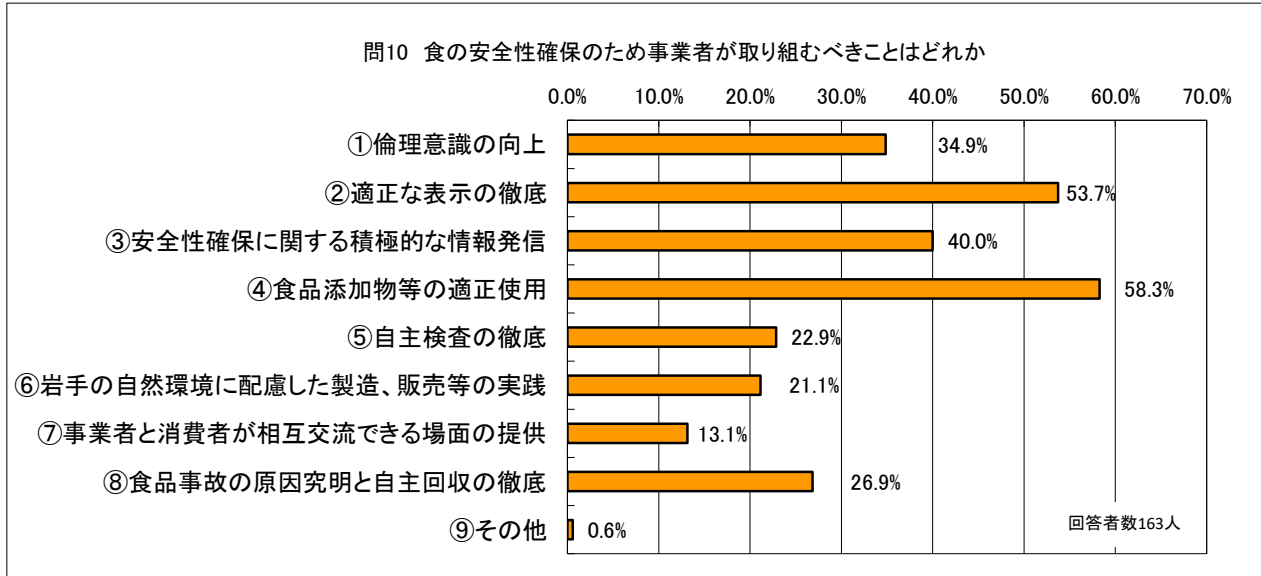
(2) 行政(県)が取り組むべきこと



生産者が取り組むべきこととして、「倫理意識の向上」を選んだ人が、そのために必要だと思うこと(自由記載)について挙げたことを分類すると、生産者がすべきこととしては、学習・教育に関することが最も多く(15人)、行政(県)が取り組むべきこととしては、監視指導の充実に関すること(24人)が最も多かった。



問10 あなたは、食品の製造、販売等を行う事業者が食の安全性確保のために特に取り組むべきことは次のうちどれだと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。

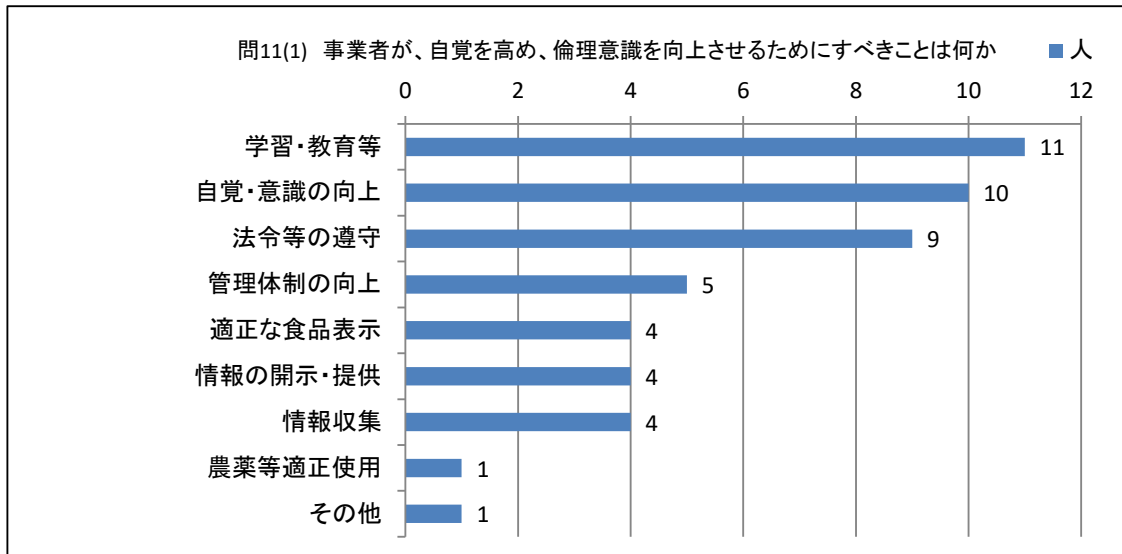


県民が求める事業者の取組は、「④食品添加物等の適正使用(58.3%、前回41.1%)」が最も多く、次いで「②適正な表示の徹底(53.7%、前回58.9%)」、「③安全確保に対する積極的な情報発信(40.0%、前回30.1%)」の順に多かった。

問11 問10で①(倫理意識の向上)を選んだ方にお聞きします。

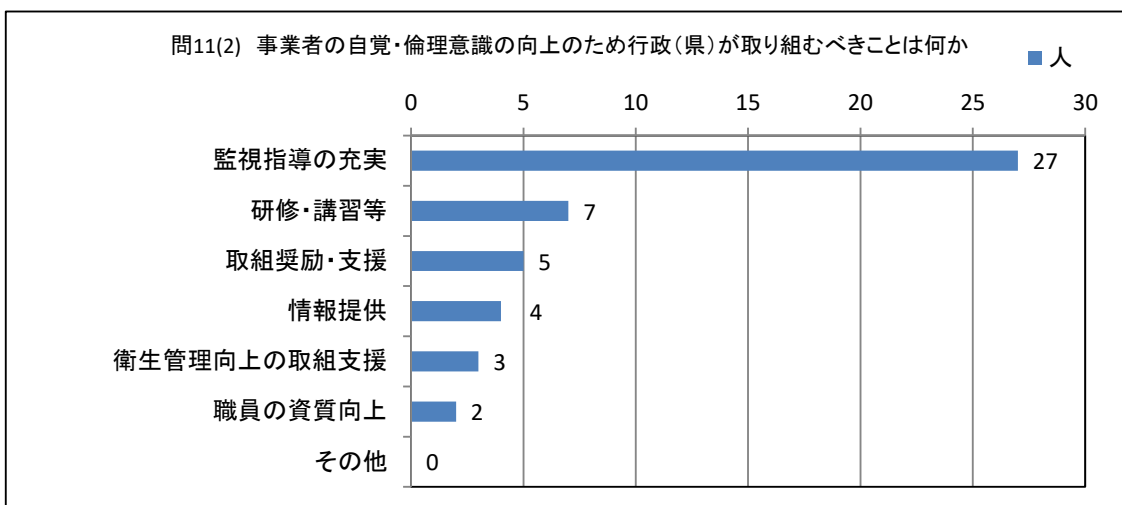
あなたは、製造、販売等の事業者が自覚を高め、倫理意識を向上させるために必要なこと(具体的にすべきこと)及び行政(県)が取り組むべきことは、何だと思えますか。(自由記載)

(1) 事業者がすべきこと



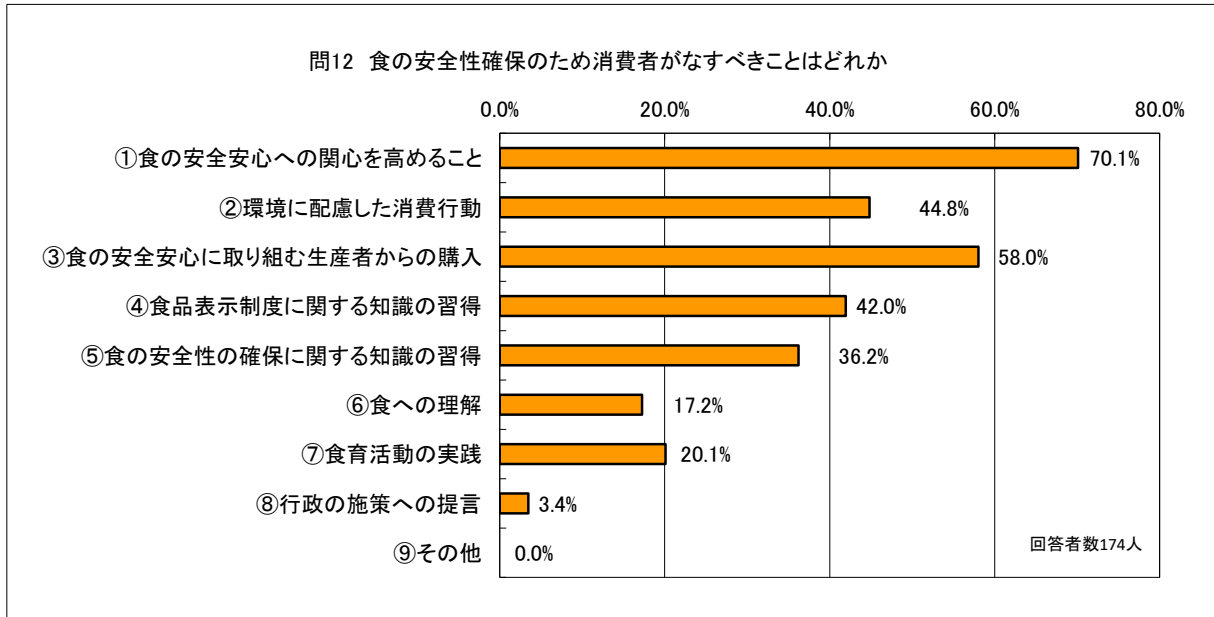
※「その他」の主なもの: わからない

(2) 行政(県)が取り組むべきこと



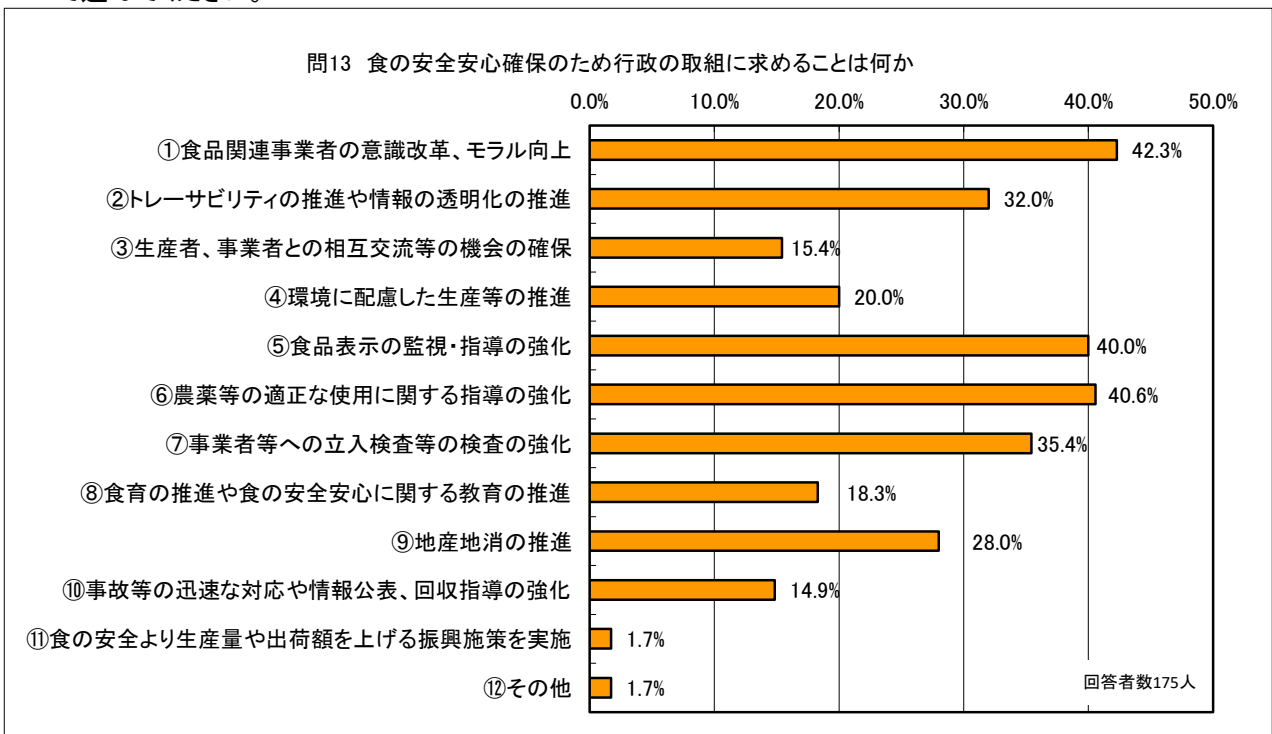
事業者が取り組むべきこととして「倫理意識の向上」を選んだ人が、そのために必要だと思うこと(自由記載)について挙げたことを分類すると、事業者がすべきこととしては、学習・教育等(11人)が多く、行政が取り組むべきこととしては、監視指導の充実に関すること(27人)が多かった。

問12 あなたは、食の安全安心の確保のため、消費者がなすべきことは次のうちどれだと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



消費者がなすべき取組としては、「①食の安全安心への関心を高めること」(70.1%、前回63.8%)が最も多く、次いで「③食の安全安心に取り組む生産者からの購入(58.0%、前回47.9%)」、「②環境に配慮した消費行動(44.8%、前回49.7%)」の順に多かった。

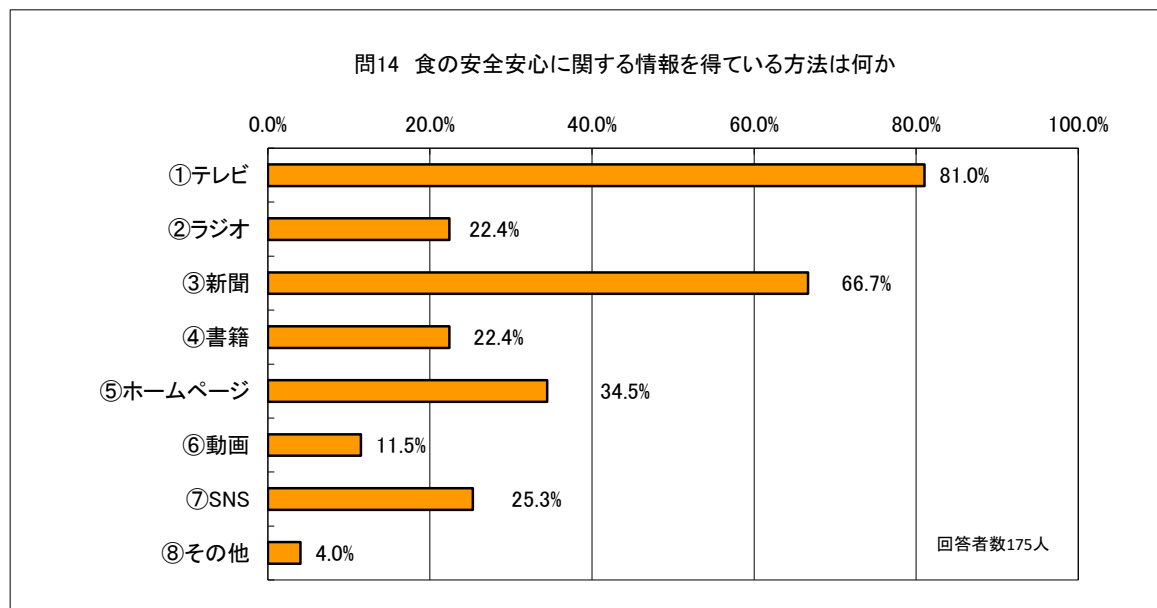
問13 あなたが食の安全安心の確保のため、行政の取組に求めることは何ですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※「その他」の主なもの: 効率化、複数の食品添加物による安全性の確認、消費者意識の向上

行政の取組に求めることは、「①食品関連事業者の意識改革、モラル向上(42.3%、前回40.5%)」が最も多く、次いで、「⑥農薬等の適正な使用に関する指導の強化(40.6%、前回35.6%)」、「⑤食品表示の監視・指導の強化(40.0%、前回41.7%)」の順に多かった。

問14 あなたが日頃、食の安全安心に関する情報を得ている方法は何ですか。あてはまるものを3つまで選んでください。

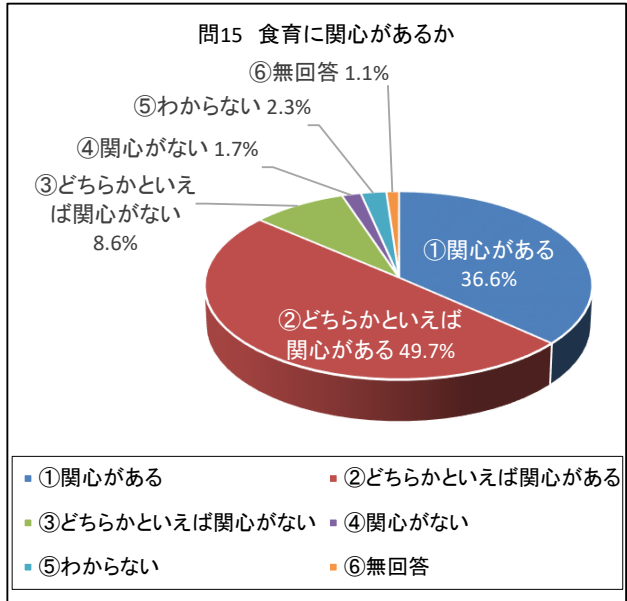


※「その他」の主なもの：講習会、商品に記載されている生産者の情報、友人や知人から、チラシ、女性週刊誌等

食の安全安心に関する情報を得ている方法は、「①テレビ(81.0%、前回80.4%)」が最も多く、次いで「③新聞(66.7%、前回63.2%)」、「⑤ホームページ(34.5%、前回34.4%)」の順に多かった。

問15 あなたは、食育に関心がありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

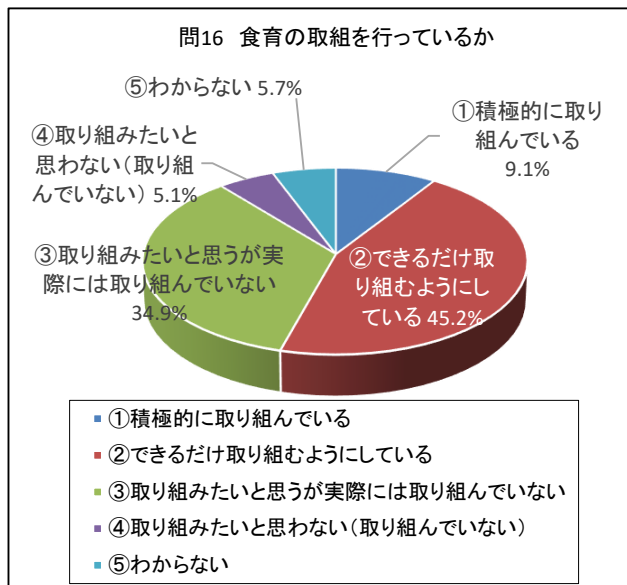
①関心がある	64
②どちらかといえば関心がある	87
③どちらかといえば関心がない	15
④関心がない	3
⑤わからない	4
⑥無回答	2
計	175



食育に関心がある人は86.3%(前回81.6%)であり、ほとんどの人が食育に関心を持っている結果となった。

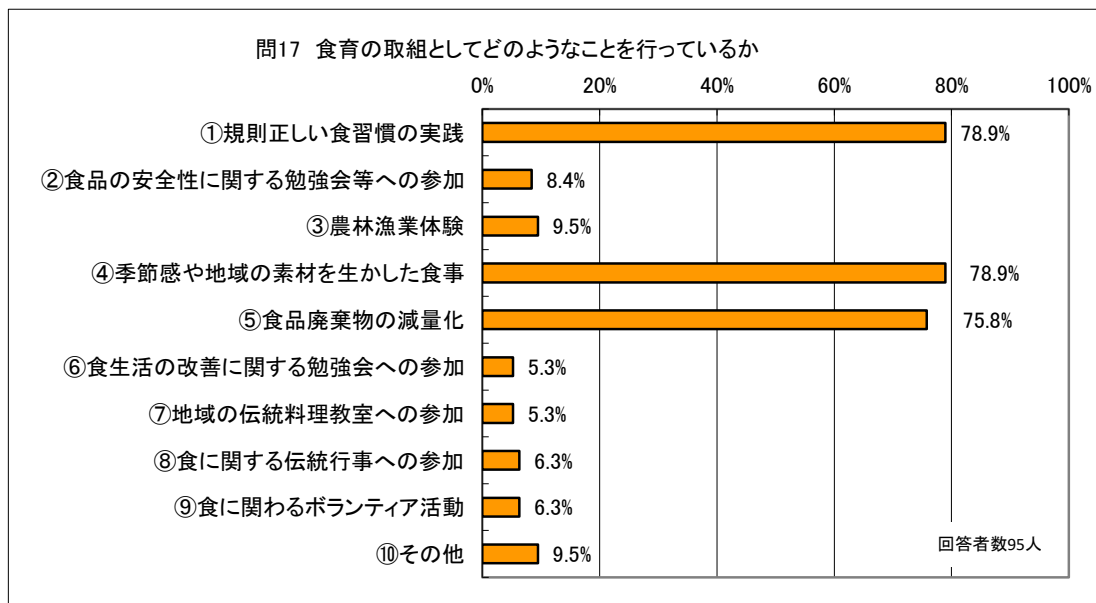
問16 あなたは、食育の取組を行っていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

①積極的に取り組んでいる	16
②できるだけ取り組むようにしている	79
③取り組みたいと思っているが、実際には取り組んでいない	61
④取り組みたいと思っていないし、取り組んでもいない	9
⑤わからない	10
計	175



食育の取組を行っている人の割合は54.3%(前回56.5%)である。また、取り組みたいと思っているが実際には取り組んでいない人が34.9%(前回33.7%)であり、取組をしやすい環境づくりや場の提供を推進することで、食育の取組の拡大が期待できる。

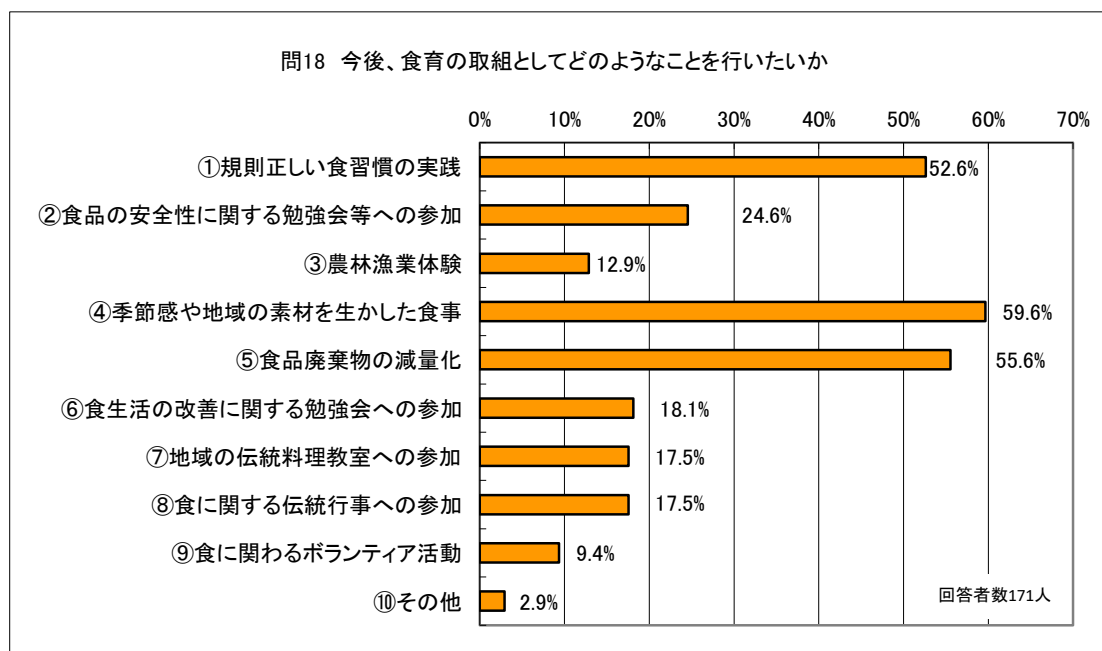
問17 問16で①又は②を選んだ方にお聞きします。  
食育の取組としてどのようなことを行っていますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※ 「その他」の主なもの: バランスの良い食事、健康になる食事を心掛ける、子どもの口に入るものに責任をもつ、子どもと食べ物について話しながら食べる、産地で新鮮な食品を買う、添加物の少ない食品や環境に配慮した食材を購入 等

食育の取組として行っていることは、「①規則正しい食習慣の実践(78.9%、前回84.8%)」及び「④季節感や地域の食材を生かした食事(78.9%、前回76.1%)」が最も多く、次いで「⑤食品廃棄物の減量化(75.8%、前回70.7%)」の順に多かった。

問18 あなたは、今後、食育の取組としてどのようなことを行いたいと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。

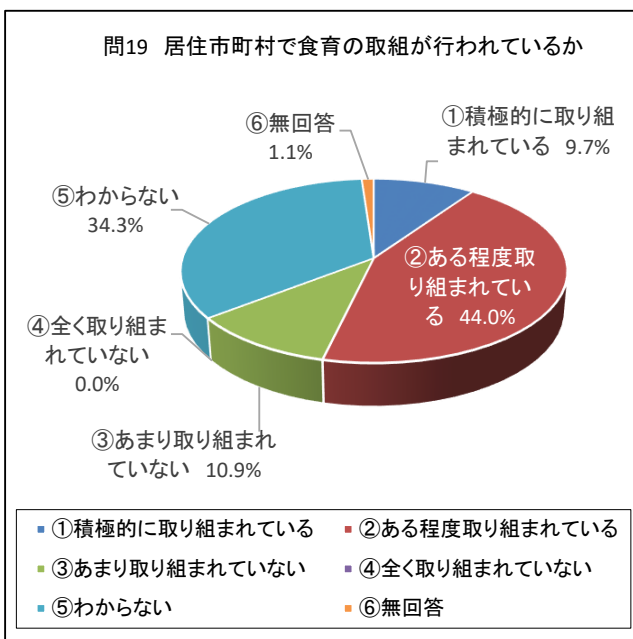


※ 「その他」の主なもの: 家族で楽しくおいしく食べる、地産地消、インターネットで発信されている情報で勉強、生活習慣病などの予防 等

今後、食育の取組として行いたいことは、「④季節感や地域の素材を生かした食事(59.6%、前回61.3%)」が最も多く、次いで、「⑤食品廃棄物の減量化(55.6%、前回59.5%)」、「①規則正しい食習慣の実践(52.6%、前回56.4%)」の順に多かった。

問19 あなたのお住まいの市町村では、食育の取組が行われていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

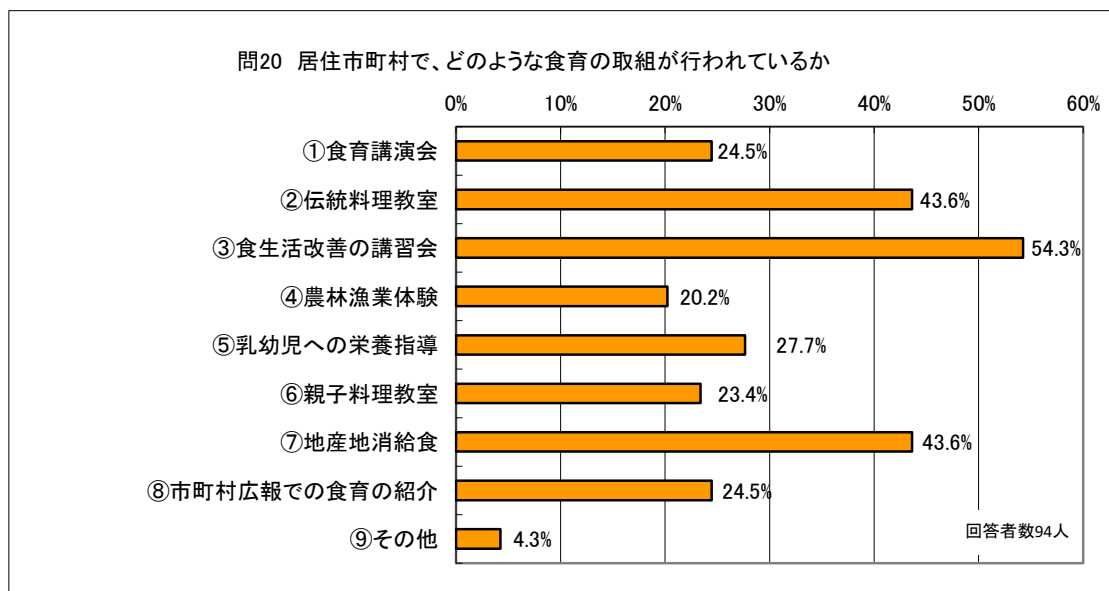
①積極的に取り組まれている	17
②ある程度取り組まれている	77
③あまり取り組まれていない	19
④全く取り組まれていない	0
⑤わからない	60
⑥無回答	2
計	175



居住している市町村で食育の取組が行われているとした割合は53.7%（前回59.5%）と前回より減少した。また、取組の有無が分からないという回答は34.3%（前回26.4%）と前回より増加した。

問20 問19で①又は②を選んだ方にお聞きます。

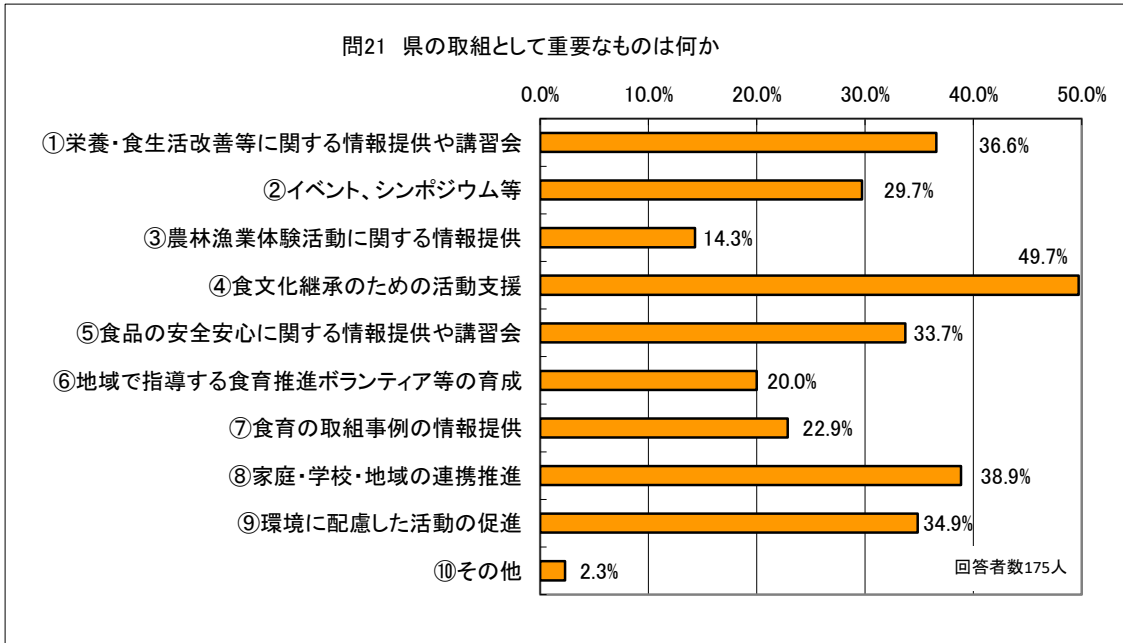
あなたのお住まいの市町村では、どのような食育の取組が行われていますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※ 「その他」の主なもの：学校給食での「かみかみ給食の日」、「世界各国の料理をいただく日」やイベントに合わせた献立、産直での生産者の顔写真やメッセージ表示、スーパーでの地産地消コーナー、生活習慣病対策のチラシ 等

居住市町村の食育の取組内容は「③食生活改善の講習会(54.3%、前回59.8%)」が最も多く、次いで「②伝統料理教室(43.6%、前回48.5%)」及び「⑦地産地消給食(43.6%、前回53.6%)」の順に多かった。

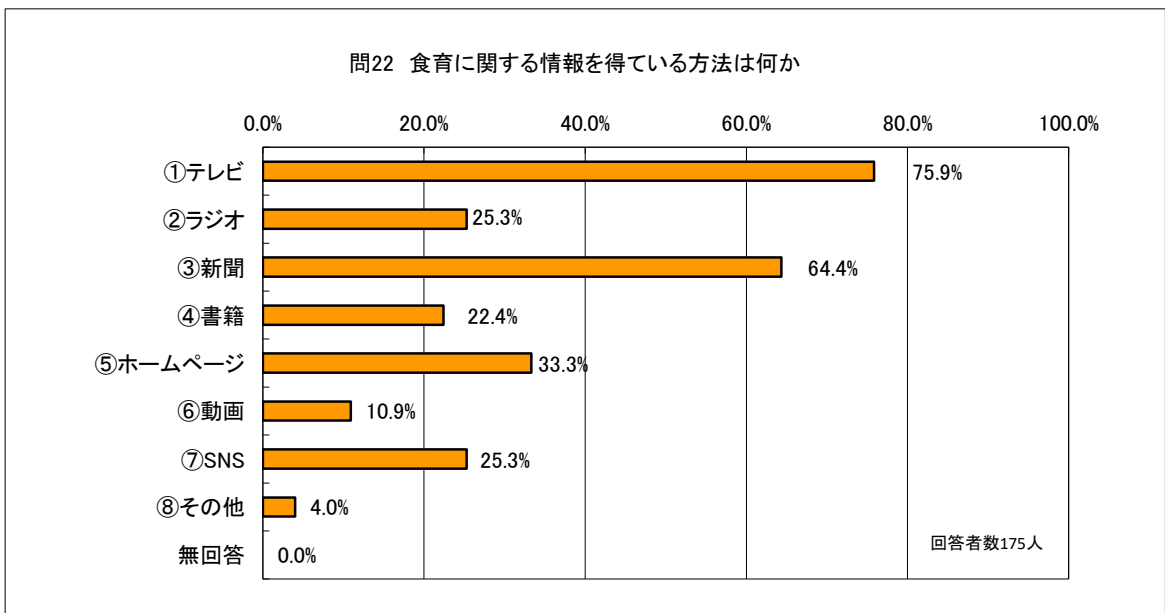
問21 食育を進めるための「県の取組」として、重要だと思うものは何ですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※「その他」の主なもの:学校での教育、高校生での給食、食育活動を行う団体・個人への給付金、イベント参加者にしか伝わらないような取組ではなく県民に広く効果のある取組 等

県の取組として重要なものは、「④食文化継承のための活動支援(49.7%、前回44.8%)」が最も多く、次いで「⑧家庭・学校・地域の連携推進(38.9%、前回38.0%)」、「①栄養・食生活改善等に関する情報提供や講習会(36.6%、前回34.4%)」の順に多かった。

問22 あなたが日頃、食育に関する情報を得ている方法は何ですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※「その他」の主なもの:広報誌、勉強会、給食だより、知人から 等

食の安全安心に関する情報を得ている方法は、「①テレビ(75.9%、前回78.5%)」が最も多く、次いで「③新聞(64.4%、前回61.3%)」、「⑤ホームページ(33.3%、前回28.2%)」の順に多かった。



問23 食の安全安心、食育について、日頃感じていることがあれば御自由にお書きください。

1	資材、人件費、燃料費は高くなっているのに、野菜は値上げされない。生産者は安心安全を考える前に過労死が頭をよぎる。
2	心身の健康維持のため、食育に興味を持ち、実践していきたいと思っています。
3	野菜の販売をしながら思うのは、「外国産」「添加物が多い」もの程価格が安いので、産直の野菜の価格を安くせざるをえないことです。お客さんに「産直なのに高い」と言われるとがっかりします。虫がつかない見た目の良い野菜を提供するには、農薬を多く使った方が楽というようになってしまいます。安全安心な農業は、手間もお金もかかります。私は公務員を早期退職して家業の農業とパート事務員をしていますが、小規模農業だけでは生活できません。美味しく安全な野菜を提供するためには、農業をもっと大事にしてほしいと思います。水産業、畜産業もしかりです。 家庭の食事に関しても、職業を持った母親の増加やこどもの習い事などで、食事が簡単になっているうえ決まったものしか食べない家庭が増えていると感じています。「食事の大切さ」「地産地消」「伝統食」「郷土料理」など、テレビ・ラジオ・ポスター・SNSなど、多方面から取り上げる機会を増やして欲しいと思います。食の安全・安心には、生産者と消費者の意識のすりあわせが必要だと思えます。
4	賞味期限を良く見るようにしています。
5	日本ではことさら農薬の取り扱いについて敏感に反応する人が多いが、現在の農業において農薬の使用範囲や用途は適正だと感じており、一般消費者の農薬に対する反応は過敏だと思っている。また、その反動から「無農薬」に対するイメージが相対的に上がりすぎていると思っており、「農薬＝悪」「無農薬＝正義」といった認識が広まってきている。これは結果的に、既存農家を苦しめるだけでなく、食品の生産量にも関わってくる問題だ。無農薬はあくまでの食品の付加価値の一つにすぎず、個人の趣味嗜好において選ぶ選択肢ではないはずだが、前述のように善悪論の文脈で語られる事が多すぎる。ただでさえ少ない国内の食糧自給率に対して悪影響しかない。販売者側からすれば商品に高い付加価値をつける事ができ「利益」につながるからこそ推進していると思うが、一般的な食品流通の大部分を占めている通常農法で生産している生産者にとってはマイナスでしかない。また農薬を使う事に罪悪感を感じるような状態にもなっているのではないか。行政に必要な事はこうした利益に左右されるような情報の発信ではなく、公平で正しい情報発信を積極的に行い、食の安全・安心につながる消費者の基本的な認識を正す事だ。
6	県産食材には安心感があります。ロシアのウクライナ侵攻により、我国の資源のないことを認識をしました。食糧を含め他国に依頼する体質をあらためて国内資源を最大限有効に活用する政策を望みます。
7	食育はとても大切だと思うが、仕事優先となり、なかなか上手に取り組めていない。家庭だけでは無理なので、学校や地域に協力頂いて子供たちに食について学んで欲しい。
8	農地が余っているのに輸入に頼っていかなければならない(例えば小麦など)状況が不思議だと思う。国内で生産された安心安全な物でまかなえないものか。
9	日頃から地産地消の食材を利用しての食事の提供する機会を作って子どもから高齢者の食事の大切さについて伝え、地域で取り組み問題解決に繋げコミュニティづくりに繋げていけたら良いと思います。食は、生きていく大切なことであるため。
10	腐るものは、安全である！！腐らないものは身体のボルトがはずれそう。
11	生産性や利益性を求めた産業構造が、必然的に生活に不安を感じさせる食材を生産販売させてきた。コロナ禍にもっと原点に振り返る良い機会となったように思われます。あまり意識することなく過ごした事でも反省すべき物があると、感じています。自助による生活の行動意識を持たなければならないし、そのような社会構造を作ってほしい。
12	学童保育に携わってますが、朝ごはんを食べない子が多く悲しい。お弁当もたまに見ますが、冷凍物が…あげものが…
13	食の安全、安心、食育は常に興味を持っていました。添加物をあまり使っていない物を選んだりしますが値段が高いと思ったりして難しいです。又、岩手県産の物が他の県より高いのが何故かなと思います。たくさん販売し手頃な値段で販売してほしいです。
14	産地を気にする人ほど味を分かっていない。料理人などの味の分かる人以外は、産地を気にする必要はないと考える。
15	添加物による影響が気になっています。外食やコンビニ食に頼りたい気持ちがある一方、体にあまりよくないものが入っているのでは…と心配も。そういうことが学べる機会があったらうれしいです。
16	食品の産地偽装や農薬添加物に関する事が気になってます。
17	これまで価格より国産・地元産を選んでいたら今は安い物に目がいきます。全て安全安心といかなくても、表示が正直に記してあれば、納得して購入することができます。またスーパー等に食材を使い切る工夫や料理レシピがあればまねて、廃棄する食品の量を減らしていきたい。

18	実家で野菜を作っていますが、孫達の体の事を考えて農薬等は極力使用しない様に作り方をかえてくれています。見た目は虫くいがあつたり形が悪かつたりしますが安心していただいています。味もおいしいです。農家の方の苦労は予想をこえた努力があります。今は冷凍野菜もあり、旬をいかした野菜の活用術を考えながら私も孫達に食事を提供したいと思っています。
19	産地偽装の防止を強力に！！
20	日頃から食品を購入時には地産地消を心がけております。生産者や事業者の皆さまのおかげで毎日食事がいただけることに感謝しております。万が一食品に産地偽装や使用禁止の添加物など使われていても消費者の立場で気づくことは難しいです。食べ物で身体は作られています。これからも安全なものを食べれるよう願っています。
21	添加物が及ぼす健康への影響が怖い。でも、それを知らない人が多すぎる。
22	岩手県は生産者さんが多く、意識の高い生産者さんが見受けられ、とても心強い。どうしても食環境は諸外国と日本国との関係性など、大きな力の影響を受けやすく、個人のがんばりだけではいいものを提供して下さるのも困難になる。県として、国の指示に従うだけでなく、独自の施策で生産者さんを守り、少しでも多くそれを地元の人間が消費して、人間のからだも岩手県の大地も健全に守れるようにご尽力いただきたいというのが本音である。そして県民の消費者意識を高めなければ、岩手県のこの美しい環境も守ってはいけなさと感じている。
23	物価高の中、食育よりも食自体を確保することがむずかしい状況にもあります。食の確保が今は心配しております。
24	スーパーやコンビニで普段購入する食品には添加物が使われているものや遺伝子組み換え、ホルモン剤などが使用されているものに溢れ過ぎています。当たり前にならぬ自然な食品を購入できない状況に不安を感じています。
25	無農薬、有機栽培で体に良い食べ物を作っても、安価な野菜に押されて適正な価格で販売されていないのが問題。消費者がもっと賢くなって、今より体に良い食べ物を選ぶようになったら良いと思います。女性は特に、小さい時からの食べ物の蓄積が、生まれてくる子供に影響する事を考えて、食に対して慎重になって欲しい。
26	形の悪いものであっても安心安全な食物は商品として提供できる常態となれば、廃棄することもなくおいしくいただくことができるという食育につながると思う。
27	遺伝子組み換え表示がわかりづらい。気にしてはいるが、その判別をしにくくなっているように思います。
28	共働き家庭が多くなって子ども達の食も安全とか栄養とかよりも手に入りやすいものとか、手間のかからないものとか親たちの関心もうすれているように思う。忙しい親たちに期待できない分、地域や学校にて(給食指導とか)子どもたちに関心をもたせる工夫をしていくなどみんなで育てていきたい。
29	以前は各地区に保健師が在駐していて、身近に栄養教室、料理教室の機会があり、参加しやすかった。人とのつながりの中で情報を共有したいと思う。
30	冷凍やレトルトのおかずは、安価で便利だが、入れ物のゴミが多くなるし、保存のための添加物などがより多く使われているように思う。新鮮な地産地消の食材や旬を感じた食生活で、お腹がいっぱいになるだけではない、食品に含まれる栄養や本当の美味しさをもっと感じることを大切にしていきたいし、次世代にもしっかり伝えていきたいと思う。
31	岩手県はおいしい食べ物がたくさんあります。日頃から道の駅や産直などで地元の野菜や果物も購入しております。岩手県の子供たちの肥満傾向も気になります。
32	遺伝子組み換え技術を使った「人口肉」「養殖魚」本当に安全なのか。化学肥料や農薬を使わない農業の実践、地域の農作物を学校給食に。
33	食品の産地偽装などの偽装表示を絶対なくする。
34	魚・肉・野菜・果物について、価値の安い商品提供の為に外国産がかなり多くなったと感じています。余談ですが、妻は中国産を買いません。
35	子や孫の世代に安心安全な食事を楽しく食べられるようになってほしいです。自分で情報を収集していくことが大切だと思います。
36	岩手は食べ物が新鮮で美味しい！というブランド力が最大の強みなので、食の安心安全の信頼が揺るがないようにしっかり啓蒙して欲しい。
37	食品添加物のアレルギーがある(人工甘味料など)食品表示を細かくチェックしている。表示がなかったり、虚偽表示があると命にかかわるので正しく表示して欲しい。
38	私の子どもですが、食に興味がない子が多いのかなと思います。なるべく地域の料理、食材を選んで、一緒に調理、食べたりすることで、食への関心や地域への関心をもてたらいいなと思います。
39	見た目の悪い野菜や規格外の野菜などの販路拡大。

40	「食の安全安心、食育」言われても漠然としていると思う。誰でも分かるような表現にしてもらえれば、取り組みやすいのではと思います。
41	購入の際に、値段の安さと、食の安全とのバランスに苦慮しております。安全なものを購入したいが、どうしても経済的に安い方を購入してしまうこともあります。
42	体をつくる最大要素であるので、無農薬の物が増えて欲しいと願ってます。
43	昨年開催された、市(?)主催の食に関する勉強会に申し込みの電話をした時、「所属はどちらですか」と聞かれて、面食らいました。はじめから県や市の関係者を想定しての企画だったのでしょうか？一般でも参加出来るとの事でしたが、少し違和感を覚えました。市の広報での募集でした。コロナ禍での開催には感謝しますが、もう少し少ない人数で出来れば、気兼ねなく参加出来たかなと思いました。食に関する仕事をしている人を対象にするのもいいのではと思います。
44	食の安全は、表示されている事を信用して購入している。できるだけ国産の物や地元生産者の商品を購入している。
45	学校給食はセンター方式よりも学区などの小規模方式にして、安心安全を身近に感じられるようにしてほしい。異物混入や食中毒の被害規模のリスクも少ないと思われます。また、子ども食堂など地域コミュニティとの連携などで子育て支援もできると思います。 我が子(40歳になったので、25年も前のことではありますが)は、子どもの頃からの食育が重要であるにも関わらず、給食時間が少なく、ゆっくり味わえなかつたり、中学校では給食時間が委員会会議にあてられていたので、お弁当を食べそこなつたり、飲みこむように食べなくてはならなかつたりと、とても心配でした。当時、学校に心配を伝えても反応はありませんでした。学校教育の体験はおとなになっても影響がありますので、現在は改善されているのでしょうか。
46	年々新食材を目にするが、調理方法等のアドバイスがほしい。
47	県産品は安全安心と思っていますが、指定外添加物使用などということが発生すると不安に感じます。
48	買い物に出た時など時々産地や原材料を確認しているが外食すれば利用食材については不明で残念である。ただ、現在のインフレ状況では余計な負担を業者様にお掛けしたくないと思います。
49	1ヶ月ほど前に起きたゆで卵などを製造・販売する八幡平市の食品加工会社が、製造過程で使用が認められていない消毒剤を使っていたことは、衝撃的なニュースでした。また、鹿児島県出水市の会社が中国産のごぼうを青森県産や宮崎県産と偽って北九州市の卸売会社などに販売していたことも報道されました。資材・エネルギー価格の高騰等により事業者・生産者のご苦労は理解しますが、法令遵守し安全安心な食品を提供することが、取引先や消費者との信頼関係につながることから、食彩王国にふさわしい事業者・生産者・県産食品であってほしいと思います。県のほうには、リーフレットの制作等による事業者・生産者への啓発活動はもとより、エネルギー・資材高騰により困っている事業者・生産者への支援をお願いしたいと思います。
50	先日、孫の通学する中学校の「給食だより・1月号」を読みました。今回のモニターアンケートの項目の「食育」についての記載が献立の中に生徒にも分かりやすく組み込まれておりました。①材料の「地産地消」、②季節野菜の効能、③四季折々の行事献立食の積極的取組、④食品の栄養価の表示、⑤年に何回かお弁当持参の日があり家庭で一緒に献立から仕上げ迄を体験(町内では小学校からの継続) 町では「食改善推進委員協議会」の組織があり町民の健康増進の為、30年以上に渡り地域において様々な活動を推進している。小・中学校の学校給食についても「給食便り」でも分かるように食育に配慮した工夫が隔々に行き渡っており安心して拝読しました。日頃の給食センターの皆様に感謝です。
51	食品は、特に春～秋は産直を利用するようにしている。魚やワカメなども県内産のものを購入しており、旅行先でも地場のものを購入するようにしている。岩手のものは、安全で、価格も手頃である。
52	スーパーやコンビニの売れ残りの廃棄が多いような感じがします。そこを改善してほしいです。
53	一関市校長会の食育講演会は、毎年平日の日中に開催し、各校PTA役員に動員を掛けて保護者の聴講実績を上げようとしていると思われる。共稼ぎ家庭やシングル家庭が多くなっていてPTA役員も専業主婦はほとんどいない。休日などに実施するとともに、PTA役員に動員を掛けるのではなく広く一般の保護者にも聴講を呼びかけるべきだろう。
54	食品添加物の多さとその影響について心配である。(複数使用されている時の相互作用が問題無いかどうかなど)
55	自身で食するものは、出荷する。第三者にであれば出荷するという考えはあってはならない。利益中心ではない取り組みが重要と思う。
56	特に意識はしてないが、知識を得れる機会があれば、もう少し勉強する必要があるとは思っている。
57	日本は食品添加物など、他国に比べると基準が甘いと聞きます。だからこそ、自分で学んで安全な食を守りたいと思います。給食もオーガニックや地産地消などを取り入れていけたら理想的だと感じています。

58	日々この食品は安全と思って食べている中、時折ニュースに出る生産者、事業者の不適切な生産が行われた事に対しては失望し、せめて岩手産の製品は絶対安全・安心に食べられる物と思い、利用して行きたいと思います。
59	地産地消について、地元産の物を買いたくても、家計が厳しいとどうしても海外産の安い物を購入してしまう。地産地消に積極的な人には何かいいことがあればいいのと思う。例えば地元産の物を年間何万以上購入したら補助金があるとか、税の優遇があるとか？県産商品にのみ使える商品券や地域通貨の活用なんかもいいと思う。地産地消に取り組みたくても、お金がないとできない現状がある。そうすると地元農家が苦しくなる現状もわかっているのに。早急に何か対応策を考えて実行してほしい。農家さんの生活が成り立たなくなつてからでは手遅れになる。
60	岩手県産品は安心、安全と選ぶ時は県内のものを中心にしています。ただ、加工の段階で本当に信じて良いのか気になる時もあります。
61	食べることにに関する情報はたくさんあるが料理でできる廃棄物の処理の仕方や鍋やカップ麺などの汁の捨て方、フライパンや食器についた油の処理など、食べた後のことに関する情報がない。水に流す、ゴミに出すだとどうなるかと処理の仕方を広報してほしい。ゴミや排水と食を一連の流れとして食育してほしい。
62	三陸の海産物を購入したいのですが、原発の放射能の影響がどの程度あるのか不安で躊躇してしまいます。
63	食育といっても、どこから取り組んでいけば、良いのかわからないのが、現状なのではないでしょうか。ガイドラインを策定するにしても内容が複雑多岐にわたって、取り組めないのが悩む所でもあります。
64	先日、八幡平市の食品加工会社が禁止薬物を製品に使用していたという事件が発生しましたが、私もその製品を愛用していたのでとても残念でした。このような事件は、消費者の健康にも影響するものですので、県は取締りの強化と経緯の公表などをしっかりと行っていただき、再発の防止をお願いしたいと思います。消費者の健康被害があるかどうかとも調査してほしいと思います。
65	物価高騰で食品の値上げがされていて、いかに健康なものを効率よく摂取できるかいつも食事の時に心がけてます。生産者の方も頑張っておられている方だと思います。食べて応援出来ればいいと感じます。我が家では地産地消で出来れば家庭菜園や実家が農家なので新鮮なものを頂き食卓が野菜中心にしています。今後も継続したいです。
66	添加物の基準や実際の身体への影響に関する知識が曖昧だと感じているが、種類も多く複雑で購入時に判断に困ることがある。また、大手メーカーのものだと安心して手に取りがちだが、改めて確認してみるとそうでもないことも少なくない。食品や添加物の基準や表示がもっとシンプルにわかりやすくなってくると、より安心に過ごせると思う。例：小学生でも判断できる程度のレベル分けや表示、安全性についてレベル別の色分け表示 など
67	小学校やこども園の食育には感謝しかありません。
68	娘家族と同居しています。娘は子供が小さい事もあり、食品だけでなくラップ、ペーパー等についても国産品を使うなど気をつけています。
69	県内もしくは近隣地域で生産されたものを購入したいと思っているが経済的な余裕がないとなかなか全て購入するのは難しいと思います。
70	産直のような地元食材が手軽に手に入れられる場所が増えて、地産地消が意識せずできるようになったら非常に助かります。
71	大手スーパーなど季節を無視したものを多く販売している事が気になります。
72	特に生産者、事業者のトレーサビリティの推進や食品に関する情報の透明化の推進、食品表示の監視・指導を強化する事。
73	ゲノム食品について心配しています。表示をしっかりとってくれたら選択しない。
74	原産国の表示がこのごろあいまいになってきていると感じる。(外国産もしくは国内産)国内製造ということばも多くなって来ている(産地を知りたいのに…)
75	県内の味つけ卵、温泉卵の報道にがっかりした。倒産覚悟で行っていたのだろうか？偽装は厳罪。倒産すれば良いと思っている。
76	県内の食品は信頼して購入しています。食育については給食センターが発行する給食だよりや学校からの保健だよりで情報を得ています。SNSも利用しているので、SNS(インスタ)等で食育情報を得られたらいいなあと思いました。
77	食育→教育(食に関する)は非常に重要ですね。体と心をつくる源です。将来の為にも情報提供、事業+イベントの実施今後も続けてください。我々の1人でも多くの人達がより学び、知識を得ようとする意識づけのきっかけとなる様に！
78	「まごはやさしい」の実施。
79	子育ても終わり食育に関しては関心がありませんでしたが若い子育て中の方々が料理教室など多くの体験ができる機会があればいいと思います。

80	食育ですので、子供の頃から関わられるような仕組みが大事だと思います。岩手県は広い面積で一次産業も盛んで、農業なども今後重要視されていくと思います。資源が豊富で潜在力がある地域なので若い人の関心を向けさせる事も大事です。また、健康も今後重要視されていく分野だと思いますので、健康との繋がりにもフォーカスすると全ての世代に関心を持ってもらえると思います。
81	朝食は特にご飯・味噌汁・納豆・焼き魚・牛乳又はヨーグルトを食べるように心がけている。
82	世界及び全国に向けて、岩手の食の安全、安心について情報発信を行う。
83	シジミの産地偽装問題など、卸業者でも分からないことをされている可能性があるのを知った時は怖いと思った。生産者の方々を疑っているわけではないが、やはり行政の抜き打ち検査は必要だと思う。食育については、小学校程度の年齢であればとつきやすいもの(生産地見学等)から始められるといいと思う。
84	やはり、生産者、事業者と消費者の信頼関係が大切だと思います。食育も。知ることは大切で正しい情報がほしいです。
85	魚については、福島原発の処理水が放出されることを思うと、いくら新聞等で安全だと報道されても信じがたい。政府高官やその家族の方々が3ヶ月程福島近海の魚を食して健康な状態が何ともないということが証明されれば、それなりに考えるが今の段階ではとても日本でもとれる魚を食する気になれない。
86	八幡平市の卵加工会社のように、美味しいものを作っても安心安全が脅かされるような事例は他にもあるのではないかと不安な気持ちになりました。生産者や加工者の皆さんには、安心安全な食品を届ける事をもっと大切にしてほしいですし、消費者も勉強していかなければならないと感じました。
87	子どものうちから食に関する知識を学べることはとても良いことだと思います。
88	各地で、食の匠や食生活改善委員が伝統料理、季節の郷土料理の講習会で食育を行って欲しい。
89	食品への添加物の使用、放射性の関係、農薬の事、環境問題の事、物価の事、医療体力の事、考える事がいっぱいですね。安心して生き生きと生活したいものです。
90	問17、問18の選択肢の中に「食べ残しなど食品廃棄物を減らす」という項目があるが、規格外の野菜を捨てたとか恵方巻を作りすぎたとかのニュースを見ると残念に思うので、どうにかしてほしいです。
91	物価高のため、私も含めて高いものを買わなくなっている。スーパーなどでは安いパンは売れているが高いパン屋さんのパンは売れていない。個人の店は体力もないし、小さな店は街の大切な存在。農業も食品を扱う商店も応援する手立てを岩手県として考えて欲しい。
92	食べる事は、生きる事、残すのはもったいない、親からの教えです。
93	食育について、今一度、勉強しなおそうと思います。
94	福島は本当に安心して食べられるのか不安。
95	八幡平市の卵加工会社の事件もあり、不安な事がたくさんです。
96	近々で起こった事象で言いますと八幡平のゆで卵業者が、使用禁止の消毒薬を使っていた事が事後で発覚する等、いつも『事後』で出てくる為、消費者側が気を付けていても防げない事が多いです。
97	食品添加物を余り使わないように、食品を購入するときには内容表示を見ながら購入しています。ただ、最近食品の値上がりもあり、なかなか思うように購入できていません。旬の物でも、天候不順等でやっぱり高いと思う事も増え、毎日を工夫して栄養を考えながら子供たちの為に作っている毎日です。
98	農薬・添加物の影響のない食品を購入している。
99	生産者は作物の出来具合、食味、糖度管理を徹底して欲しい。果物において市場に出すには早いものも見受けられる。
100	山菜採りを趣味にしており、山菜に虫がついていたり、傷があったり、形が悪いものがあるのは当然だと思っている。一方で、虫がついていない野菜は、農薬が使われているという話はよく聞きますがそれでも、通常店舗で売られているキャベツや白菜などの野菜は、虫がついていないものや形のいいものを求めている自分があります。金額が同じならば、見栄えのいいものを求めることは仕方がないのかもしれないが、生産者の段階で大きさ・形・傷などで廃棄されるのはもったいないと思っています。料理すれば、いわゆる規格外の野菜を使用したということは全然わからないし、味が同じであれば見栄えでなく廉価なものを求めている人も多いと思いますので、食品として流通に乗る前の段階で廃棄される生産物についても良い活用策があればいいなと思います。
101	岩手ならではの、また各市町村の伝統、名物をもっとピックアップして、高齢者からも伝授して、促進していくことが大切。

102	<p>食材の産地偽装は止まるところは知らない、国内はともかく国外(特に中国)から輸入し国産品だと業者が偽り、問屋が購入し、小売店そして消費者へ発覚するまで10年も提供されていたとの事、食品の品質嗜好には差異は無かったのでしょうか？いずれ問屋が国産と信用し市場に流通し不思議にも違和感なく食していた事例です。しかし産地偽装が平然と行った事業者には行政側から重罰(業務停止等)を科さない限り次々繰り返される。モラルの問題まさに倫理意識の欠如である。事業者(サンプリング)への巡回点検、指導を切望します。</p>
103	<p>なるべく食品ロスを出さない様、心がける。</p>
104	<p>農産物の産地偽造(中国産を地元産と混入し販売)や、10%果汁程度の商品を100%ジュースのパッケージや表記をし販売するなど、生産者・製造者のモラルの無いニュースが世間をにぎわせています。消費者は知識不足により回避は無理です。しかしながら、上記の詐欺行為は食べても安全ではあるのかなと、消費者はあまり問題視されてはいないと感じます。家畜の病気・農産物の農薬や土壌汚染などについては、食べると安全ではないと消費者はとても心配です。そのため、上記については行政でしか、食い止めることができないため、頑張ってもらいたいです。</p>
105	<p>食育については、子どもに関しては行政が手厚く保護していると思いますし、岩手県は給食も充実しています。しかしながら、高齢者については地域の方による、ふれあい弁当などの弁当配達(月に1~2回?)にとどまり、高齢者世帯や軽度認知症などの症状による食事の偏りなどの問題が懸念されます。岩手県は高齢者の割合も高く、交通の便も悪い地域が多いため、行政の積極的な支援が必要であると感じます。地域の方々にも広く募集をかけ、元気なおばあちゃんを集めお弁当を作り、中高年が運転し、元気なおじいちゃんに配達させる団体を設立し、お給料を高齢者に支払う仕組み作りも生きがいづくりとなり、地産地消の一つの考えではないかと思い、提言致します。</p>
106	<p>添加物が多い。</p>